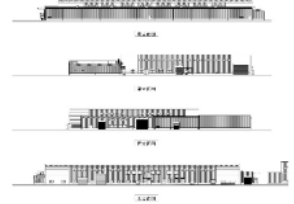


1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	新日工業株式会社 第3工場増築工	階数	平屋建
建設地	愛知県豊川市御津町佐脇浜一号地	構造	S造
用途地域	都市計画区域内(市街化区域)、防火	平均居住人員	78 人
気候区分	6地域	年間使用時間	6,336 時間/年
建物用途	工場	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2020年10月 予定	評価の実施日	2018年11月30日
敷地面積	12,090 m ²	作成者	松本浩敬
建築面積	2,061 m ²	確認日	2018年11月30日
延床面積	2,053 m ²	確認者	深井孝悦



2-1 建築物の環境効率 (BEEランク&チャート)

BEE = 1.1 ★★★★★

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

☆☆☆☆☆

標準計算
①参照値 100%
②建築物の取組み 69%
③上記+②以外の 69%
④上記+ 69%

2-3 大項目の評価 (レーダーチャート)

2-4 中項目の評価 (バーチャート)

Q のスコア = 2.5

Q1 室内環境

Q1のスコア= 0.0

Q2 サービス性能

Q2のスコア= 3.2

Q3 室外環境 (敷地内)

Q3のスコア= 2.1

LR 環境負荷低減性

LR のスコア = 3.6

LR1 エネルギー

LR1のスコア= 3.8

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア= 3.4

LR3 敷地外環境

LR3のスコア= 3.4

3 重点項目

①地球温暖化への配慮

4.2

③敷地内の緑化

1.0

外構緑化指数(外構緑化面積/外構面積)

14.1 %

建物緑化指数(建物緑化面積/建築面積)

0.0 %

②資源の有効活用

3.3

④地域材の活用

1.0

<外装材に使用した地域性のある材料>

なし

<建物の構造材・内装材、外構に使用した地域性のある素材>

なし

各重点項目は、以下の評価項目の得点により算出されています。

①地球温暖化への配慮
LR-3 1 地球温暖化への配慮
②資源の有効活用
Q-2 2 耐用性・信頼性、Q-2 3 対応性・更新性
LR-2 2 非再生性資源の使用量削減
③敷地内の緑化
Q-3 1 生物環境の保全と創出

外構緑化指数 = $\frac{\text{中高木の樹冠の水平投影面積} + \text{低木・地被等の植栽面積}}{\text{敷地面積} - \text{建物面積} - \text{附属物面積}} \times 100$

建物緑化指数 = $\frac{\text{屋上緑化面積} + \text{壁面緑化面積}}{\text{建築によって占有された部分の水平投影面積(法定面積)}} \times 100$

スコアシート		実施設計段階		環境配慮設計の概要記入欄						
配慮項目	独自基準 重点項目	建物全体・共用部		建物全体・共用部		居住・宿泊部分		全体		
		評価点	評価点	重み係数	評価点	評価点	重み係数			
Q 建築物の環境品質									2.5	
Q1 室内環境										
1 音環境										
1.1 室内騒音レベル										
1.2 遮音										
1 開口部遮音性能										
2 界壁遮音性能										
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)										
4 界床遮音性能(重量衝撃源)										
1.3 吸音										
2 温熱環境										
2.1 室温制御										
1 室温										
2 外皮性能										
3 ソーン別制御性										
2.2 湿度制御										
2.3 空調方式										
3 光・視環境										
3.1 昼光利用										
1 昼光率										
2 方位別開口										
3 昼光利用設備										
3.2 グレア対策										
1 昼光制御										
3.3 照度										
3.4 照明制御										
4 空気質環境										
4.1 発生源対策										
1 化学汚染物質										
4.2 換気										
1 換気量										
2 自然換気性能										
3 取り入れ外気への配慮										
4.3 運用管理										
1 CO ₂ の監視										
2 喫煙の制御										
Q2 サービス性能									3.2	
1 機能性										
1.1 機能性・使いやすさ										
1 広さ・収納性										
2 高度情報通信設備対応										
3 バリアフリー計画										
1.2 心理性・快適性										
1 広さ感・景観 (天井高)										
2 リフレッシュスペース										
3 内装計画										
1.3 維持管理										
1 維持管理に配慮した設計										
2 維持管理用機能の確保										
2 耐用性・信頼性										
2.1 耐震・免震・制震・制振										
1 耐震性(建物のこわれにくさ)										
2 免震・制震・制振性能										
2.2 部品・部材の耐用年数										
1 躯体材料の耐用年数										
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔										
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔										
4 空調換気ダクトの更新必要間隔										
5 空調・給排水配管の更新必要間隔										
6 主要設備機器の更新必要間隔										
2.4 信頼性										
1 空調・換気設備										
2 給排水・衛生設備										
3 電気設備										
4 機械・配管支持方法										
5 通信・情報設備										

1種類以上にB以上を使用し、Eは不使用としている。

3 対応性・更新性				3.5	0.48			-	3.5
3.1 空間のゆとり				5.0	0.31			-	
1 階高のゆとり			天井が無く屋根裏表しの為、水下梁下~FL=4.8mを評価値とする。	5.0	0.60			-	
2 空間の形状・自由さ			壁長さ比=0.03	5.0	0.40			-	
3.2 荷重のゆとり				3.0	0.31			-	
3.3 設備の更新性				2.7	0.38			-	
1 空調配管の更新性		②		1.0	0.17			-	
2 給排水管の更新性				1.0	0.17			-	
3 電気配線の更新性				3.0	0.11			-	
4 通信配線の更新性				3.0	0.11			-	
5 設備機器の更新性			更新・修繕時に建物機能を維持できる。	4.0	0.22			-	
6 バックアップスペースの確保			バックアップ設備のためのスペースが計画的に確保されている。	4.0	0.22			-	
Q3 室外環境(敷地内)				-	0.57			-	2.1
1 生物環境の保全と創出		独自③		1.0	0.30			-	1.0
2 まちなみ・景観への配慮		独自④		3.0	0.40			-	3.0
3 地域性・アメニティへの配慮				2.0	0.30			-	2.0
3.1 地域性への配慮、快適性の向上		独自④		2.0	0.50			-	
3.2 敷地内温暖環境の向上				2.0	0.50			-	
LR 建築物の環境負荷低減性									3.6
LR1 エネルギー					0.40				3.8
1 建物外皮の熱負荷抑制					-				-
2 自然エネルギー利用				3.0	0.28				3.0
3 設備システムの高効率化			LEDライトを採用した。	5.0	0.43				5.0
4 効率的運用				3.0	0.29				3.0
集合住宅以外の評価				3.0	1.00				-
4.1 モニタリング				3.0	0.50				-
4.2 運用管理体制				3.0	0.50				-
集合住宅の評価					-				-
4.1 モニタリング					-				-
4.2 運用管理体制					-				-
LR2 資源・マテリアル					0.30				3.4
1 水資源保護				3.4	0.15				3.4
1.1 節水			節水コマなどに加えて、省水型機器(節水型便器)を用いている。	4.0	0.40				-
1.2 雨水利用・雑排水等の利用				3.0	0.60				-
2 雨水利用システム導入の有無				3.0	0.67				-
2 雑排水等利用システム導入の有無				3.0	0.33				-
2 非再生性資源の使用量削減				3.6	0.63				3.6
2.1 材料使用量の削減				2.0	0.07				-
2.2 既存建築躯体等の継続使用		②	既存建築躯体を利用した増築計画としている。	5.0	0.25				-
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用		独自	-	3.0	0.21				-
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用				3.0	0.21				-
2.5 持続可能な森林から産出された木材				-	-				-
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み		独自	S造により、主要構造部材と仕上げ材の分離・解体が可能。	4.0	0.25				-
3 汚染物質含有材料の使用回避				3.0	0.22				3.0
3.1 有害物質を含まない材料の使用				3.0	0.32				-
3.2 フロン・ハロンの回避				3.0	0.68				-
1 消火剤				-	-				-
2 発泡剤(断熱材等)				3.0	0.50				-
3 冷媒				3.0	0.50				-
LR3 敷地外環境					0.30				3.4
1 地球温暖化への配慮		①	ライフサイクルCO2排出率が、一般的な建物参照値と同等以上。	4.2	0.33				4.2
2 地域環境への配慮				3.0	0.33				3.0
2.1 大気汚染防止				3.0	0.25				-
2.2 温暖環境悪化の改善				3.0	0.50				-
2.3 地域インフラへの負荷抑制				3.0	0.25				-
1 雨水排水負荷低減		独自		3.0	0.25				-
2 汚水処理負荷抑制				3.0	0.25				-
3 交通負荷抑制		独自	適切な駐車場の確保が出来ている。	4.0	0.25				-
4 廃棄物処理負荷抑制				2.0	0.25				-
3 周辺環境への配慮				3.2	0.33				3.2
3.1 騒音・振動・悪臭の防止				3.0	0.40				-
1 騒音		独自		3.0	1.00				-
2 振動		独自		-	-				-
3 悪臭				-	-				-
3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制				3.0	0.40				-
1 風害の抑制				3.0	0.70				-
2 砂塵の抑制				-	-				-
3 日照障害の抑制				3.0	0.30				-
3.3 光害の抑制				4.4	0.20				-
1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策			光害対策ガイドラインのチェックリスト過半を満たしている。	5.0	0.70				-
2 屋外の建物外壁による反射光(グレア)への対策				3.0	0.30				-

重点項目スコアシート

実施設計段階

■使用評価マニュアル

CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版手引き

新日工業株式会社 第3工場増築工事

■評価ソフト:

CASBEE-BD_NC_2016(v2.1)_AICHI

重点項目(配慮項目)		評価点	全体に対する 重み係数	重点項目スコア
① 地球温暖化対策				4.2
LR3-1	地球温暖化への配慮	4.2	0.10	
② 資源の有効活用				3.3
Q2-2	耐震性・信頼性	2.9	0.22	
Q2-3	対応性・更新性	3.5	0.21	
LR2-2	非再生性資源の使用量削減	3.6	0.19	
③ 敷地内の緑化				1.0
Q3-1	生物環境の保全と創出	1.0	0.17	外構緑化:14.1%/建物緑化:0%
④ 地域材の活用			(評価ポイント)	1.0
Q3-2 4)	地域性のある素材による良好な景観形成	0.0	-	なし
Q3-3.1 I 2)	地域性のある材料の使用	0.0	-	なし

■重点項目スコア算出式

各重点項目スコアは、以下の方法により算出されています。

①地球温暖化への配慮、③敷地内緑化

重点項目スコア=各配慮項目の評価点

②資源の有効活用 (評価点×全体に対する重み)の総和

重点項目スコア= 重みの総和

④地域材の活用

重点項目スコア=評価ポイントの合計+1

計画上の配慮事項	
総合	既存工場との一体増築のため景観を損なわない外観とすることで、周囲との調和を図った。
Q1 室内環境	〈評価対象外〉
Q2 サービス性能	天井(屋根裏)が高い大空間は、機械加工工場の機能を十分果たしながら、従業員に閉鎖感を与えず働きやすい空間となるよう努めている。 耐力壁となる間仕切り壁がなく、将来のレイアウト変更にも対応できる。
Q3 室外環境(敷地内)	既存建物と仕様を合わせ、工場地帯に見合う計画としている。 敷地内には積極的に緑地帯を設けており、出入り口は外部からの景観を、敷地中央は従業員の憩いの場となるよう考慮している。
LR1 エネルギー	外気に触れる面には断熱材を施し、設備システムの高効率化を図る。
LR2 資源・マテリアル	衛生設備に節水コマや省水型機器(節水型便器)を採用することで、水資源の保護に努めた。 有害物質を含まない材料や、低フロン・ハロンを採用することで、資源使用に伴う汚染物質排出量の削減に努めた。
LR3 敷地外環境	光害の抑制に努めることで敷地内から発生する環境負荷が、敷地境界線を超えて地球・地域・周辺環境に及ぼす影響を低減する。
その他	